

研究

伊能忠敬測量日記と地図

文化七年（二八一〇）三月二日～四月二日

佐伯領内海岸部測量

高盛西郷

（佐伯市大入島石間）

【はじめに】

十年ほど前、友人から伊能忠敬測量日記の本を借用、佐伯湾に浮かぶ「大入島」を記録に留めていたが、昨年佐伯史談会五十周年記念事業に際し改めて再読した。

また、模写された佐伯地方の地図を会場で拝見することができた。その他、実際に綴った日記の原本写しの一部を鶴見町誌で拝見、句読点は殆どないこと。蒲江町誌では小字・距離は細書きで二行になっているが、手元の日記では編者が活字版発行のおり読みやすく一行書にしていた。日々の距離は尺貫法で分かり辛かったがこのほどメートル換算した資料で距離感ができた。

伊能大図は地名が並んでいるが、明治三八年に模写した



伊能忠敬肖像【千葉県佐原市所蔵】



測量方「御用旗」【同】

とされる地図は地名が不揃いになっている。

これまで佐伯史談一九四号・一九九号・二〇六号で日記や地図の一部が研究発表されている。

来年は佐伯を測量して二〇〇年に当たる。多くの資料を得たので「佐伯領内伊能図」と日記を組み合わせて、一日の行程を改めて調べてみた。

原本は国の重要文化財の指定があるので日記と地図は変え難く、そのままとし地名など誤写誤字があると思われるものには右に正式名を○書きで付記した。日付は当時は旧暦、時刻は不定時法を用い、「」内に挿入した。また、「日付や一行の人名、天候、止宿など太字にし訪れた役人、庄屋と贈り物は点線で囲んだ。

このたび、上浦の沿線から蒲江の県境まで、伊能忠敬一行の足跡を追って所要所要を訪ねてみた。

【参考資料】

- 日記「伊能忠敬測量日記」九州ふるさと文献刊行会
- 同 四教堂塾（メートル挿入）鶴見町誌・蒲江町誌
- 地図「佐伯領内伊能図」旧海軍水路部発行。大分海上保安部佐伯海上保安署 所蔵。



伊能忠敬『測量日記』千葉県佐原市所蔵

## 【伊能忠敬の略歴】

日本地図の測量を最初にした人、延享二年（一七四五）上総国（千葉県）に生まれ、のち伊能家の養子となり、家業の傍ら歴学に関心を寄せ寛政六年（一七九四）四九歳で隠居し、翌年江戸に出て幕府天文方、高橋至時よしかさの門にはいり、本格的に天文・歴学、測量術を学んだ。

五年後の寛政十二年に奥州街道から蝦夷地（北海道）東部の測量に出発した。以後幕府に実力を認められ、手伝職となつて日本列島の津々浦々を歩いた。

この全国測量の成果は伊能忠敬の没後、文政四年（一八二二）に門弟の協力で「大日本沿海輿地全図」が完成し、七月一〇日幕府（第十一代將軍徳川家斉）に献上した。

## 【豊後（大分県）の測量】

文化六年の暮れ六五歳の時に、九州入りし東九州沿岸を測量しながら南下、豊後には文化七年（一八一〇）正月二十二日に中津城下に到着。豊後の一次の調査が始まつた。二次測量は文化八年十二月から九州西北部を回つた。

九州測量隊には次の人々が携わつた。伊能忠敬は幕府天文方の高橋作左衛門の手付（幕府の測量方）の肩書、坂部貞兵衛は手伝勤方。下役は下河辺政五郎、永井要助、青木

勝次郎（絵図師）の三人。伊能忠敬の弟子は梁田栄蔵、上田文助、箱田良助の三人。侍は成田豊作、松井沢治、恩田藤吉。竿取は平助と長蔵の二人、中間五人の十八人。

測量予定地の役人、各庄屋などには、幕府の「御証文の写し」を添えて前触れを出し、順次先々に協力要請をした。測量は毎日全員が先手、後手の二班に分かれて股引わらじがけ姿で早朝から午後小昼ごろまでと、夜間も測量を行つた。

佐伯藩領の海岸はリアス式で入江が多く乗船での移動も多かった。佐伯領津久見浦に入ると止宿の庄屋藤左衛門宅に、佐伯毛利美濃守（九代藩主高誠）の浦手役浅沢弘左衛門・同地方役天谷甚左衛門（浦奉行・郡奉行）が挨拶に出向いた。

佐伯藩領蒲戸浦に入ったのは旧暦の三月二日、未だ寒気のある春先であつたが雨天が多い中、佐伯湾での測量は順測に進んだが九州東端の鶴見半島にかかると、波風高く見合わせる日も多く全国的にも困難な測量沿岸線であつた。

一ヶ月に及ぶ測量は沿岸部二〇五km、離島部約六五kmを測り、四月二日国境を越え日向国（延岡）に出た。

【本文】

三月 二日 朝晴天 同所逗留測 先後手六ツ頃(五時半) 出立。

後手 下河辺・永井・(深良津)梁田・平助

久保泊より初め、落浦枝深浪津浦字鬼毛(人家一軒)・落浦本郷字獅子浦(人家五軒)・枝田浦(人家十三軒)・字摺木(廿九日測初め)まで測る。一里〇八丁三十五里(約四、八六五m)

先手 青木・上田・箱田・長蔵

落浦字間脇より初め、字高浜(人家四五軒)・字大谷(大谷)(人家二三軒)・蒲戸浦字ノウガ内(人家三軒)まで測る。一里一十一丁十二間五尺(約五、一五〇m) 我ら坂部は相残り午中を測る。また、江戸状を認む。後手は九ツ前(十二時)先手は八ツ前(二時半)に帰宿

蒲戸浦庄屋平兵衛、福泊浦庄屋与惣兵衛、津井浦庄屋吉之丞出る。

曆局行用状、この所より佐伯城下に発す。

供侍成田豊作 不東なる儀これあり、この所より長の

暇遣わす。翌三日に右暇遣わす旨、曆局に咎状を發す。

この夜晴天 測量



佐伯領四浦半島 (測量図)

同 三日 朝晴天 先後手七ツ半後〔午前四時〕鳩浦

出立。

先手 我ら・下河辺・青木・梁田・長蔵

蒲戸浦字ノウガ内より始め、福泊浦字唐人波石まで測る。

一里一十五丁一十二間五尺(約五、五六八m)

後手 坂部・永井・梁田・上田・平助

二月廿七日より荒網代越の<sup>白</sup>印より初め、津井浦海辺に至る。

一十二丁四十一間(約一、二七四m)それより逆測、夏

井浦・同字大地浦・古江浦・福泊浦・蒲戸浦入会唐人波

石にて後手と合測。一里十七丁二十六間四尺(約五、八三

〇m)昼休福泊浦小屋掛、両手共八ツ前〔午後二時半〕津

井浦着。止宿 一向宗西派真宗寺。

宮野内浦庄屋三右衛門、代津浦同萬右衛門、古江

浦庄屋儀兵衛、笹良目浦同武右衛門、晡干浦庄屋

弥太郎、浅海井浦同又右衛門、嶋高松浦庄屋平兵

衛出る。

この夜晴天 測量

同 四日 朝より晴天 先手六ツ前〔午前五時半〕

後手六ツ後〔午前五時半〕津井

浦出立。

後手 我ら・青木・上田・箱田・平助

津井浦より初め、浅海井浦村波太・晡干浦・古江浦字風無

浦・浅井瀬井崎まで測る。一里廿〇丁五間(約六、一一八

m)同古江浦止宿まで、五十〇丁五十四間二尺(約五、五

五三m)後手、狩生浦持彦島一周を測る。二十一丁四十六

間一尺(約二、三七四m)

先手 坂部・下河辺・永井・梁田・長蔵

大入島測る。久保浦字白浜<sup>白</sup>印より初め、日向浦字夷浦・

二五浦・高杉浦<sup>(高松浦)</sup>唐船波石・字竜ヶ鼻まで測る。白浜<sup>白</sup>印よ

り高松浦止宿まで一里二十丁二十三間(約六、一五〇m)高

松浦止宿前より竜ヶ鼻まで九丁三十四間三尺(約一、〇四

四m)、合て白浜<sup>白</sup>印より竜ヶ鼻まで一里廿九丁五十七間

三尺(七、一九五m)内三十九間(約七一m)を除く。先

手は九ツ半時〔午後一時半〕に、後手は八ツ前〔午後二時

半〕大入島高松浦へ着。

本陣 禅宗濟家大休庵、脇宿 百姓十兵衛

大入島浦々庄屋出る。

塩内浦より右衛門、森後浦吉兵衛、日向泊浦六左

衛門、片神浦孫兵衛、久保浦七兵衛、石間浦儀兵

衛、荒網代浦与兵衛、高松浦共八ヶ浦なり。

地方

海崎村大庄屋江藤林左衛門、下野村大庄屋染矢孝

右衛門、狩生村大庄屋弥右衛門、戸穴村大庄屋助

右衛門出る。

この夜晴天 測量

同日 五日 朝晴天 先手六ツ頃〔午前五時半〕大入島高

松浦出立。

永井・梁田・上田・平助

大入島久保浦字白浜（竹ヶ谷浦）印より初め、片神浦枝竹ヶ浦（人家）

十軒・塩内浦字横網代（人家二軒）・荒網代浦を経て石間

浦人家前にて手分と合測。一里二十九丁一十七間一尺（約

六、〇三二m）荒網代浦、塩内浦入会持、片白島遠測凡周

七丁（約七六三m）ばかり、塩内浦持ち恵（えびしま）比須島小島なり、

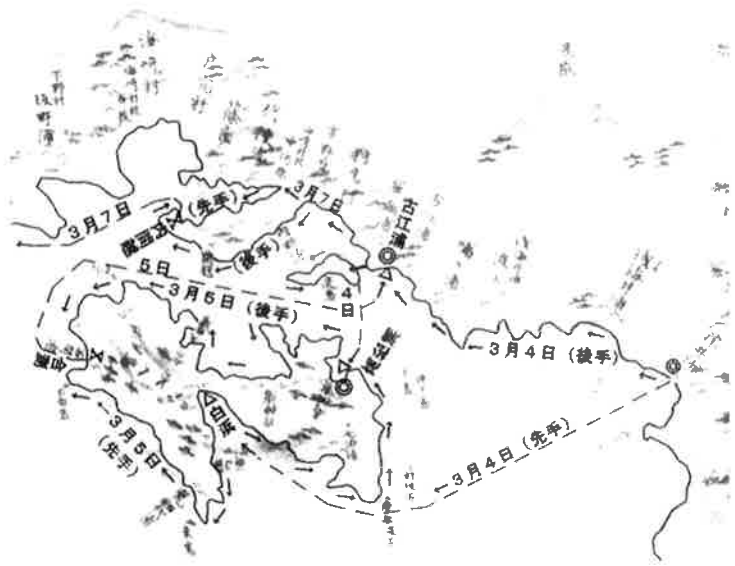
荒網代浦持鹿島（竹ヶ島？）、凡周四丁（約四四三六m）遠測。石間浦

持唐土島小島なり、遠測。

下河辺・青木・箱田・長蔵

高松浦字立浜より初め、片神浦（本浦）人家前より久保浦・

同上守後浦（竹ヶ島遠測周三丁ばかり）過ぎて、石間浦人



大入島・上浦方面図

家前にて手分と合測、二里〇五丁五十三間四尺(約八、四九七m)。大入島周五里二十八丁廿九間二尺(約二、六五三m)。両手共八ツ後(午後二時半)<sup>(古江浦)</sup>下江浦へ着。我ら坂部  
兩人午前高松浦にて地図、午後下江浦<sup>(古江浦)</sup>へ越す。

止宿 庄屋儀兵衛、別宿 百姓三左衛門

この日午後より曇天小雨

同 六日 前夜より大雨 逗留 終日雨。

同 七日 前日より雨 逗留 九ツ前(十二時) 雨止む

先後手一同に立出。

後手 我ら・下河辺・青木・箱田・長蔵

古江浦字風無浦瀬井崎より初め、狩生村枝車・宮野内浦・  
内野浦字外間越にて、先手初めに合測。三十三丁五間二尺

(約三、六〇九m) 測量初めより終りまで大雨、着後止む。

先手 坂部・永井・梁田・上田・平助

宮野内浦より初め、後手の繋に<sup>つなぎ</sup>宮印を残し山越し横切、海  
崎村枝中河原(人家五軒)まで測る。三丁三十間(約三八

二m) 中河原より海辺逆測。狩生村同枝小福良(人家六

軒)・同字アコ浦(人家一軒)・同字内間越(人家一軒)・同

字落網代(人家一軒)・同字外間越(人家一軒)、後手と合  
測。即ち狩生・内野浦界、二十六丁四十四間五尺(約二、九  
一七m)、先後手海辺測量、合一里二十三丁五十間一尺(六  
五二七m) 外に横切三十三間(約六六m) それより両手共  
乗船し、また、汐干に付き乗駕にて佐伯(毛利美濃守居城)  
城下に八ツ後(午後二時)に着。

浦支配役浅沢弘右衛門、地方役即ち代官天谷甚右  
衛門、惣庄屋吉野平左衛門、城下入口に立出。着  
後も又出る。外に内町年寄伏見屋小兵衛、船頭町  
年寄米屋九兵衛この度測量用達町人塩飽屋弥兵  
衛、名古屋善右衛門、加島屋平兵衛、佐伯領津久  
見浦より日々附添、測量案内、又止宿手配をなす。

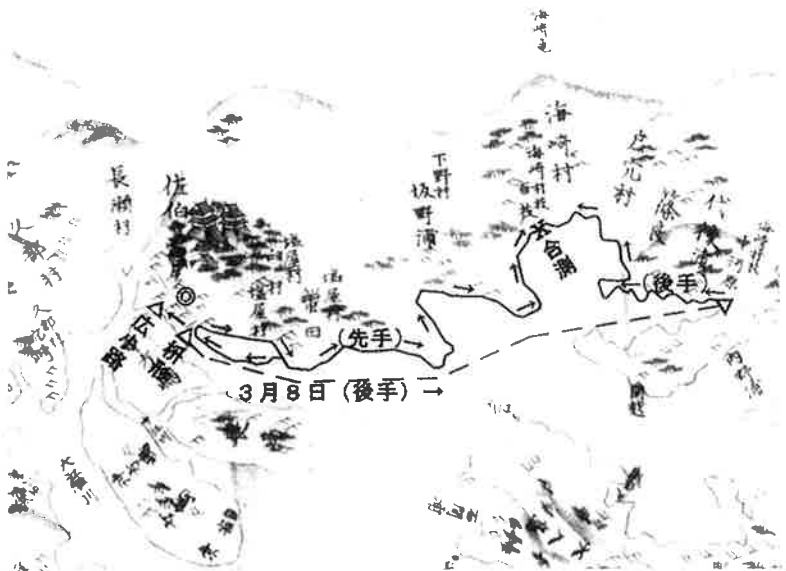
佐伯城下本町 止宿 宮崎儀右衛門、家は領主の客舎、  
脇宿 船頭町粟屋新左衛門。

この夜大曇

同 八日 朝曇天 同所逗留測。六ツ後(午前五時半)出  
立。

我ら・坂部・下河辺・永田・箱田・長蔵

塩屋村枝中村字枅形より初め、同枝白枅村字蟹田・松ヶ鼻



佐伯城下より海崎・戸穴方面

番所・海崎村・下之村・坂之浦宇脇之田・海崎村枝百枝にて手分と合測。一里十八丁一十三間二尺(約五、九一五m)また、中村字枳形より初め、中町・横町・中島町・大屋町・広小路<sup>印</sup>まで測る。四丁四十二間(約五二一m)

青木・梁田・上田・平助

海崎村枝中河原より初め、後浦、<sup>代後通</sup>笹良目浦、戸穴村、海崎

村字山口、枝百枝<sup>ももた</sup>にて手分合測。三十五丁廿一間三尺(約

三、八五七m)また、白杵村字蟹田<sup>白杵</sup>より初め、新開通り枳

形まで測る。一十〇丁〇八間四尺(約一、一〇六m)。両手

共九ツ前(十二時)に帰宿。

郡方、町方兼役袋野孫左衛門、同齊藤勘左衛門出る

佐伯侯より御贈物

我らへ半切紙二十束、坂部十五束、下河辺・青

木・永井へ十束ずつ、内弟子三人・長持宰領七束

ずつ、供侍一人・棹取二人へ五束ずつ、小者五人

へ紙下さるなり、外に料理代給る。受納

この夜雨

同 九日 朝曇天 同所逗留測る 六ツ後(午前五時



半) 出立。

手分 下河辺・永井・箱田・平助

沖の方島側、字剣崎より初め、字揚船・字中須賀(塩浜な

り)・女嶋村字日女嶋・字大方嶋一周を測る、一里一十七

丁四十八間三尺(約五、八七〇m)。それより日塩屋村持の

長島を測り字中江・字野岡浜(塩浜なり)一周を測る、一

里一十〇丁一十五間(約五、〇四〇m)

我ら 坂部・青木・梁田・上田・長蔵

本町通り枡方(昨日弥印)より初め、本町・大手・西谷通

り・船頭町・札辻通り・住吉町・浜町・住吉社前・新屋

敷・七居町(下原町)印まで測る、市中分、一十四丁二間二尺(約

一五三二m)内(印)より(印)印まで川原六町三十一間二尺

(約七二二m)。枡形より(印)印まで、市中七丁三十一間(約

八二〇m)、また(印)印より初め、中方島へ渡る、川幅二十六

間(約四七m)、塩屋村持、中方島一周を測る、三十一丁

四十二間一尺(約三、四五八m)。両手共九ツ前(十二時)

に帰宿。

佐伯領大庄屋芦代八郎兵衛、明日測量の佐伯御預

所津志河内村庄屋宇左衛門、併せて柏江村庄屋雅

五郎・当領地松浦庄屋長左衛門・羽出浦庄屋孝



3月9日 (手分)

佐伯城下の測量

八・大島浦庄屋甚之丞、中浦組大庄屋丹賀浦初左衛門(苗字佩刀免許なり)

この夜大曇

同十一日 朝より曇天 両手共六ツ後(午前六時)出

立(同前逗留測)

先手 下河辺・梁田・箱田・平助

(塩屋付) 塩尾村の内、大江滝(大江滝)字長波石より初め、逆測同字鳥越(人

家五軒)・木立村字新知窪(人家一軒)・同小檜木(人家一

軒)・同大桜木(人家三軒)・同小野(同三軒)・同角道、それより御料所佐伯御預所津志河内村、同古坂(家一軒)・同字蛸崎(人家三軒)・同枝小島・同御預所柏江村・片田村(原町一)・枝城村字川原まで測る。後手と合測、中休柏江村、午食庄屋新五郎、二里〇六丁一十間五尺(約八・五四八m)。

後手 坂部・青木・永井・上田・長蔵

久部村字池田より初め、蛇崎村、片田村(原町)枝城村字川原まで測る。一里〇一十九間三尺(約三・九六二m)。外に城村持鷲崎一周測る。一十二丁廿四間四尺(約一・二四四m)。また城村・津志河内村入会持、島屋崎一周を測る。一十一丁三十三間一尺(約一・二六六m)。(右の外町間の為に開地間五町あり)両手共八ッ前(午後二時)に帰宿。

この夜晴曇 雲間に測。霽はれてまた大曇。

(つづく)



木立・堅田・池田方面